

# 感染・腫瘍免疫系

M-04-01-L

## オーガナイザー

臨床感染制御学 小 泉 祐 介  
第二外科 岩 本 博 光

## I 授業の目的

感染症が疑われる患者が来院した際、適切な判断・治療を行うためには、細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症などに対する基礎的知識を修得するとともに、各種検査法の臨床的意味付けを理解し適切な薬物治療ができるよう学習する必要がある。

また、感染症を惹起した病因を原因微生物のみならず、宿主免疫能の面からも思考するよう訓練し、宿主免疫の抑制機序を基礎的に理解し、至適な治療法を確立する一助とする。

さらに、免疫学的異常を細胞レベルおよび遺伝子レベルで理解し、癌治療における応用を修得する。

## II 到達目標

1. 感染を含む侵襲によりサイトカイン血症に進展する機序が理解できる。
2. 世界的視点から見た伝染性感染症の診断と治療を理解できる。
3. 細菌感染症の診断・治療について理解し、述べることができる。
4. ウイルス感染症の診断と治療を説明できる。
5. 外科侵襲によるサイトカインの変動と術後病態との関連について理解する。
6. 外科手術を周術期管理の立場から考察し、術後感染症に対する発症阻止薬の選択と投与について理論的に説明できる。
7. 院内感染の感染経路、重要な原因菌と対策について述べるができる。
8. 消化器系感染性疾患の診断と治療について述べるができる。
9. 肺結核の診断法と標準治療を述べるができる。
10. 非結核抗酸菌症と主な肺真菌症の診断と治療について述べるができる。
11. 腫瘍学の概念を理解し、がんの生物学とその治療への応用について概略が説明できる。
12. 癌の分子標的治療を理解できる。
13. 癌に対する外科治療、化学療法・免疫療法を集学的に理解できる。
14. 大規模災害による自然環境の変化や避難所等の特殊な生活環境で続発する感染性疾患の病態・感染対策・予防的対応について理解できる。

## III 講義項目と担当者

### (1) 感染症

#### ① 感染症総論

- |                          |         |    |
|--------------------------|---------|----|
| 1. 感染症学序論（黒潮・感染）         | 臨床感染制御学 | 小泉 |
| 2. 生体防御・外科侵襲とサイトカイン      | 第二外科    | 中森 |
| 3. 感染症はいかに進展するか          | 臨床感染制御学 | 小泉 |
| 4. 抗微生物薬の使い方と適正使用（感染制御Ⅰ） | 臨床感染制御学 | 小泉 |
| 5. 院内感染対策（感染制御Ⅱ）         | 臨床感染制御学 | 小泉 |

#### ② 感染症各論

- |                        |         |    |
|------------------------|---------|----|
| 1. 外科・周術期感染症           | 第二外科    | 瀧藤 |
| 2. 呼吸器感染症              | 臨床感染制御学 | 小泉 |
| 3. 性感染症と尿路感染症          | 臨床感染制御学 | 小泉 |
| 4. 消化器感染症・膿瘍性病変・運動器感染症 | 臨床感染制御学 | 森本 |
| 5. 日和見感染症              | 臨床感染制御学 | 稲田 |

(2) 免疫

- |             |      |    |
|-------------|------|----|
| 1. 癌の分子標的治療 | 第二外科 | 竹内 |
| 2. 集学的治療    | 第二外科 | 北畑 |
| 3. 癌免疫療法    | 第二外科 | 横山 |

IV 推薦テキスト及び参考書

- Principles and Practice of Infectious Disease, 9<sup>th</sup> ed. (Mandell G et al) Elsevier Saunders.
- Allergic Disease:Diagnosis and Management, 5<sup>th</sup> ed. (Patterson R et al) Lippincott-Raven.
- 臨床侵襲学（小川道雄、齊藤英昭 編）へるす出版
- 免疫生物学（笹月健彦 監訳）南江堂
- エンドトキシンー新しい治療・診断・検査ー（中野昌康、小玉正智 編）講談社サイエンティフィック
- 周術期感染管理テキスト（日本外科感染症学会 編）診断と治療社
- サンフォード 感染症治療ガイド 2024（戸塚恭一、橋本正良 監修）ライフサイエンス出版

V 評価の方法

定期試験（80％）。出席態度（20％）。定期試験の成績は全学的な基準により評価する。

VI オフィスアワー

臨床感染制御学 火曜日 13：00～14：00  
 【連絡方法】ykoizumi★wakayama-med.ac.jp（担当：小泉）  
 【実施場所】研究棟4階 臨床感染制御学講座教授室

第二外科 火曜日 14：00～15：00  
 【連絡方法】kmatsuda★wakayama-med.ac.jp  
 [PHS]76144（担当：松田健司）  
 【実施場所】研究棟3階 第二外科医局  
 【備考】事前に連絡下さい

卒業時 シロ システム	1 基礎的資質				2 医師としての基本的資質				3 コミュニケーション能力				4 医学的知識								5 医学の実践								6 医学的(科学的)探究				7 社会貢献											
	問題解決型能力	情報技術	語学能力	社会人としての一般教養	倫理観	チーム医療	自己啓発	人間関係の構築	他者への思いやり	情報交換	細胞の構造と機能	人体の構造と機能	人体の発達、成長、加齢、死	疾病の機序と病態	検査・画像診断技術	基本的診察知識	疾病の診断・治療方法	EBMの利用	生物統計、疫学	行動科学・医療経済	法令、研究倫理	患者尊厳	基本的臨床技能	臨床推論・検査所見・画像診断	診療録作成	治療選択	救急医療	緩和・終末期・看取りの医療	介護と在宅医療	患者説明	医療安全・感染予防	予防医学	副作用・薬害	副作用・薬害	フレセンテーション技能	和歌山県医療	保健制度	基礎医学研究	臨床医学研究	社会医学研究	研究成果の公表	研究倫理の実践	地域貢献	福祉活動
	C	C	C	D	D	C	D	F	F	C	C	D	C	C	D	C	C	D	D	D	D	C	C	D	C	C	D	D	D	C	C	C	F	D	D	D	C	D	D	D	F	F	F	

# 講義日程表

感染・腫瘍免疫系

No.	月日	曜日	時限	項目	担当教室	担当
1	R7.11.17	(月)	2	感染症学序論（黒潮・感染）	臨床感染制御学	小泉祐介
2	R7.11.19	(水)	1	生体防御・外科侵襲とサイトカイン	第二外科	中森幹人
3	R7.11.19	(水)	2	感染症はいかに進展するか～菌血症・感染性心内膜炎・細菌感染症の診断～	臨床感染制御学	小泉祐介
4	R7.11.19	(水)	3	免疫が感染に負けるとき～日和見感染症・真菌感染症～	臨床感染制御学	稲田由佳梨
5	R7.11.21	(金)	1	癌免疫療法	第二外科	横山省三
6	R7.11.21	(金)	2	集学的治療	第二外科	北畑裕司
7	R7.11.25	(火)	1	抗菌薬を1時間でマスターする（感染制御Ⅰ）	臨床感染制御学	小泉祐介
8	R7.11.25	(火)	2	風邪と伝染病は紙一重～呼吸器感染症～ 非定型肺炎・抗酸菌感染症・ウイルス性呼吸器疾患	臨床感染制御学	小泉祐介
9	R7.11.25	(火)	3	感染症はドレナージが9割 消化器感染症・膿瘍性病変・運動器感染症	臨床感染制御学	森本将矢
10	R7.11.26	(水)	3	古くて新しいCommon Disease 性感染症と尿路感染症	臨床感染制御学	小泉祐介
11	R7.11.28	(金)	1	外科・周術期感染症	第二外科	瀧藤克也
12	R7.11.28	(金)	2	癌の分子標的薬	第二外科	竹内昭博
13	R7.12.1	(月)	2	院内感染が病院を減ぼす（感染制御Ⅱ）	臨床感染制御学	小泉祐介
14	R7.12.8	(月)	4,5	本試験		